

第6学年〇組 音楽科学習指導案

令和〇年〇月〇日（曜）〇校時

指導教諭 ○ ○ ○ ○ 印

指導者 ○ ○ ○ ○ 印

1 題 材 いろいろな音のひびきを味わおう 「木星」「ラバーズ コンチェルト」

2 目 標

- (1) 音色、リズム、旋律、音の重なりなどと曲想との関わりを理解するとともに、楽器の音の重なり合う響きを感じながら音を合わせて演奏する技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 楽器の音色を生かした演奏の仕方を工夫し、どのように表現するのかについて思いや意図をもったり、楽器の組み合わせや曲想の変化から生まれる曲、演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 様々な音色が重なって生まれる響きに興味・関心をもち、それらを生かして表現したり聴いたりする学習に主体的に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 曲想及びその変化と、音色と旋律の反復や変化との関わりについて理解している。	① 音色、旋律の反復や変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴いている。	① 曲想及びその変化と、オーケストラの楽器の音色や旋律の反復、変化との関わりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
② 曲想と音色、リズム、旋律の特徴、音の重なりとの関わりについて理解している。	② 音色やリズム、旋律の特徴、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、演奏の仕方や全体のバランスを工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	② 曲想と音色、リズム、旋律の特徴、音の重なりに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
③ 思いや意図に合った表現をするために必要な音色や響きに気をつけて、重なり合う響きを聴きながら演奏する技能を身に付けて演奏している。		

4 基 盤

- (1) 本題材で取り上げる「木星」(管弦楽組曲「惑星」より/ホルスト作曲)は、全7曲からなる組曲の第4曲目である。一つ一つの曲には惑星の名前が付けられている。作曲者は占星術的な意義が着想のきっかけになっているが、同じ名の神話の神とは何の関係もないと語っている。曲は、大きく分けて4つの部分からなり、曲想が変化していく。楽器の編成によって響きが大きく変わり、旋律や速度の変化も分かりやすいため、曲想の変化を感じ取りやすい。また、この曲を通してオーケストラで使われる楽器を知ったり、それぞれの楽器の音色を確認したりすることができる。音色の違う多くの楽器が一体となって生まれる響きを味わうことのできる曲である。

「ラバーズ コンチェルト」は、4つのパートに編曲され、各パートの楽器を自由に選択できるようになっている。各パートの役割が分かりやすく編曲されているため、各パートの役割を考えながら、楽器の選択を試行錯誤したり主体的に聴き合ったりして合奏することができる。

- (2) 本題材につながる学習として、5年生の時には「いろいろな音色を感じ取ろう」という題材で音色に着目した学習をしている。器楽では、「リボンのおどり」でいろいろな楽器の音が重なり合う響きを楽しむ活動を行う。曲を何回か繰り返し1回ごとにパートの重ね方を工夫しながら響きと変化を楽しんでいる。鑑賞では、「アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章」で弦楽器の音色に着目し、「祝典序曲」でオーケストラの響きに親しむ学習をしている。音色の異なるたくさんの楽器が一体となった豊かな響きや楽器の音色の変化を聴き取っている。

そこで、本題材の学習では、様々な音楽を形づくっている要素とそれらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲全体を味わって聴いたり、演奏したりすることができる子どもを育てたいと考える。

- (3) 本題材は、音色に焦点をあてて曲想と音楽の構造との関わり合いをとらえる学習のまとめといえるものである。

「木星」では、子ども自ら、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと自己のイメージや感情、捉えたことと生活や文化などを関連付けて考えることができるようにしたい。そのために、まずオーケストラについて学習し、楽器や音色の違いを聴き取れるようにしていく。その後、音楽の構造に目を向け、旋律やリズム、反復などの音楽を形づくっている要素を聴き取れるようにしたい。音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを根拠にして曲全体を味わえるようになることをねらっている。「ラバーズ コンチェルト」では、木星で学んだ学習を生かし、音色や楽器の特徴、リズムなどからパートの役割を理解して楽器を選び、思いや意図をもって演奏の仕方を工夫し表現できるようにしていく。

本時では、子どもが曲全体に意識を向け、曲全体を味わって聴くことにつなげるために、木星を「どんな人に」「どんな時に」聴くことをすすめるのか、自分にとっての考えをもち、伝える活動を取り入れる。その際に、「なぜそのように思ったのか」という根拠をもとに話ができるようにしていく。前時で学習したことをもとに、音楽を形づくっている要素と自分の思い、考えをつなげられるようにする。例えば、「曲の感じが変わっていく。」と発言した子どもに対して、なぜそう思ったのかを問い返したり、要素に着目した考えを述べるのみにとどまった子どもには、それによってどんな気持ちになるのかを聞いてみたりしながら、自分の思いとつながるようにしていきたい。子どもによっては、曲全体ではなく、部分的なよさの気付きにとどまる場合があるかもしれないが、様々な意見にふれることで、曲の構造にも着目し、曲全体を味わって聴くことができるようにしたい。

5 展開と評価計画（全5時間）

次	時	◎ねらい ○学習内容	◇評価規準 ◆評価方法
第一次		◎曲想及びその変化と、音色と旋律の反復や変化との関わりについて理解し、曲や演奏のよさを見いだしながら曲全体を味わって聴く。	
	1	○オーケストラの楽器の音色や旋律の反復や変化との関わりについて理解し、曲の特徴をとらえる。 ・曲について知る。 ・曲全体を通して聴く。 ・気づいたことや感じたことを発表する。	◇知・技① ◆発言内容、ワークシート ◇主① ◆行動観察、発言内容、ワークシート
	2 (本時)	○感じたことと曲想及びその変化、音色と旋律の反復や変化との関わりを考えながら、自分の思いを伝えあい、曲全体を味わって聴く。 ・どんな時に聴くことをおすすめするのかを考えて発表する。 ・曲全体を通して聴く。	◇思・判・表① ◆行動観察、発言内容、ワークシート
第二次		◎パートの役割や音色の特徴を生かして合奏する。	
	3	○曲想と音色や響き、旋律の特徴などとの関わりを理解し、各パートに合った楽器で演奏する。 ・各パートに合った楽器を考える。 ・グループに分かれ、楽器の組み合わせを工夫しながら楽器を決める。 ・グループで音色やリズムを確かめながら演奏する。	◇知・技② ◆行動観察、発言内容 ◇主② ◆行動観察、発言内容、演奏聴取
	4	○各パートの役割を考え、全体のバランスを工夫して演奏する。 ・主な旋律と他のパートのバランスに気をつけて演奏する。 ・グループで全体を通して演奏し、気づいたことを話し合う。	◇思・判・表② ◆行動観察、発言内容、演奏聴取
	5	○リズム伴奏を加え、グループごとに発表し、演奏の違いを楽しんで聴き合う。 ・リズム伴奏を加えて演奏する。 ・重なり合う響きや音量のバランスに気をつけ、演奏の仕方を工夫する。 ・各グループの発表を聴き、互いの演奏のよさや違いを楽しむ。	◇知・技③ ◆演奏聴取

6 本時の学習

(1) 本時の目標

自分の思いと音楽を形づくっている要素を結びつけながら、曲や演奏のよさなどについて考えをもち、曲全体を味わって聴くことができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と評価
1. 前時までに学習したことを振り返る。 ・オーケストラにはたくさんの楽器があった。 ・4つの部分からなっている。 ・イは、ほとんど弦楽器で演奏していた。 2. 本時のめあてを確認して、曲を聴く。	・曲全体の構造が分かりやすいように、簡単な曲の流れを掲示する。 ・前時の気付きを伝え合う時間を取ることで、音楽的な根拠とつながるようにしていく。 ・オーケストラの編成やそれぞれの楽器が確認できるように、デジタル教科書を使用する。
「こんなときにおすすめ！」を伝えよう。	
3. 根拠をもとにして自分の考えを伝える。 <u>元気になりたいときにおすすめ</u> ・はじめは、激しく演奏されているけれど、イになると、弦楽器だけになるので心が落ちつく。 その後、また激しくなるので、元気が出てくる。 <u>泣きたいときにおすすめ</u> ・迫力のあるアに穏やかなイが挟まれていることで、心が揺さぶられる。 <u>心を落ち着かせたいときにおすすめ</u> ・イは、ほとんど弦楽器だけで演奏されているから、弦楽器の音色がよく響き、とてもきれいで穏やかな気持ちになれる。 4. 本時を振り返る。 ・人によって感じ方が全く違うことに気づきました。 ・もう一度聴いてみて、強弱があるからこそワクワクしたりリラックスしたりできると思いました。	・「どんなときに聴きたくなるのか、おすすめするのかを考えてみよう。」と投げかけることで、イメージしながら曲全体を聴くことができるようにする。 ・曲全体を味わって聴くことができるように、子どもたちそれぞれの自分なりの気付きを伝え合い、曲全体の音楽の構造に意識が向くようにする。 ・考えを伝え合った後、曲全体を味わって聴くことができるように、自分の気付きや友だちの気付きを確認しながら、もう一度聴くように声がけをする。 評価【思考・判断・表現】 自分の思いと音楽を形づくっている要素を結びつけながら、曲や演奏のよさなどについて考えをもち、曲全体を味わって聴いている。 (行動観察、発言内容、ワークシート) ・これから出会う曲を聴くときに本時の学習が生かせるよう、音楽を形づくっている要素と自分の思い、考えをつながけながら聴いてみるように声がけをする。